

科目名: <b>保健体育 5a</b>			
英文名: Health and Education 5a			
担当者: 川合 裕也		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: グループワーク	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 前期	コース:
科目種別: 必修	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「授業説明」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 2 週 「ゲームにおける戦術・戦略Ⅰ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 3 週 「ゲームにおける戦術・戦略Ⅱ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 4 週 「ゲームにおける戦術・戦略Ⅲ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 5 週 「新体力テスト」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 6 週 「新体力テスト」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 7 週 「新体力テスト」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 8 週 「健康と生涯」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 9 週 「球技・基礎体力の向上」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第10週 「球技・基礎体力の向上」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第11週 「球技・基礎体力の向上」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第12週 「球技・基礎体力の向上」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第13週 「健康と環境」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第14週 「レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第15週 「レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>定期試験</p>		<p>■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理する為の基本知識を養う事を目標とします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G2) (D-G2) 自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>■教科書 「保健体育概論」近畿地区高等専門学校体育研究会編 スポーツルールブック</p> <p>■参考文献</p> <p>■関連科目 保健・健康科学</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回) 方式: 記述式 保健体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(30%)と授業への積極性(40%)、保健体育理論(定期考査)(30%)によって 総合的に評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 課題レポートを教科書・参考書で調べ、自宅学習してください。</p> <p>■教員所在場所 本館 2 階 寮務部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kawai@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 金曜日 2 限目</p>	

科目名: 保健体育 5b			
英文名: Health and Physical Education 5b			
担当者: 川合 裕也		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: グループワーク	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却・解答」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 2 週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 3 週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 4 週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 5 週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 6 週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 7 週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 8 週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 9 週 「陸上競技・マラソン計測」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 10 週 「保健体育理論」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 11 週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 12 週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 13 週 「新体力テスト」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 14 週 「新体力テスト」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>第 15 週 「新体力テスト」 [予習内容]: [復習内容]:</p> <p>定期試験</p>		<p>■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理する為の基本知識を養う事を目標とします。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G2)(D-G2) 自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>■教科書 「保健体育概論」近畿地区高等専門学校体育研究会編 スポーツルールブック</p> <p>■参考文献</p> <p>■関連科目 保健・健康科学</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回) 方式: 記述式 保健体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(30%)と授業への積極性(40%)、保健体育理論(定期考査)(30%)によって 総合的に評価します。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 課題レポートを教科書・参考書で調べ、自宅学習してください。</p> <p>■教員所在場所 本館 2 階 寮務部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kawai@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 金曜日 2 限目</p>	

科目名: <b>解析学 5a</b>				
英文名: Analysis 5a				
担当者: 伊藤 豊治			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:特になし			アクティブ・ラーニングの形態:該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング:該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1週 「スカラー関数、スカラー場、ベクトル関数、ベクトル場」 [予習内容]:既習の関数やグラフの書き方を思い出す(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 2週 「いろいろなベクトル場」 [予習内容]:ベクトル場の簡単な例を自分で書いてみる。(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 3週 「パラメーター表示と曲線上の線積分」 [予習内容]:曲線の長さの求め方を調べておく(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 4週 「スカラー関数の勾配、保存場と線積分」 [予習内容]:偏微分の計算方法を思い出しておく(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 5週 「発散とガウスの発散定理」 [予習内容]:線積分の定義と計算方法を見直しておく(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 6週 「渦度とグリーン の定理」 [予習内容]:線積分と面積分の定義を見直す(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 7週 「第1回～第6回までの総復習」 [予習内容]:今までのノートを見直しておく(30分) [復習内容]:解けなかった問題を解けるようにする(60分)</p> <p>第 8週 「中間試験の解説と空間ベクトルの内積・外積」 [予習内容]:平面ベクトルの成分表示や内積の定義を調べる(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 9週 「3次元の勾配と空間内の曲線上の線積分」 [予習内容]:2次元の場合の勾配の定義と求め方を調べておく(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第10週 「体積分、球座標、円柱座標」 [予習内容]:面積分の考え方を復習する。(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第11週 「3次元の回転」 [予習内容]:渦度の定義と求め方を調べておく。(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第12週 「ストークスの定理」 [予習内容]:グリーン の定理を復習しておく(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第13週 「様々な積分公式」 [予習内容]:ノートを見直しておく。(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第14週 「演習」 [予習内容]:配布プリントを出来る限り解いておく。(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第15週 「演習」 [予習内容]:配布プリントを出来る限り解いておく。(60分) [復習内容]:授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>定期試験 授業の内容に基づいて筆記試験を行う。(試験時間 90 分)</p>			<p>■授業概要・方法等 微積分学のうちで、必修科目の「数学」や「応用数学」で扱い切れない単元を修得します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)(A-1) ベクトル関数、スカラー場、勾配、発散と回転、ベクトルの積分、線積分、面積分等の基本的考えを理解し、具体的な計算を理解できるようになります</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の成績開示を個々に行う。課題については、授業中に出した課題は授業中に行う。</p> <p>■教科書 プリントを適宜配布します。</p> <p>■参考文献 ベクトル解析入門 小林亮・高橋大輔著 (東京大学出版会) 新応用数学(大日本図書)</p> <p>■関連科目 微積分学 I・II、線形代数学、応用数学</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験(100%)</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 演習プリントを配布するので、新しい事を学んだら、次の授業まで該当部分を解く。</p> <p>■教員所在場所 本館 2 階企画広報</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス <a href="mailto:titoh@ktcac.jp">titoh@ktcac.jp</a></p> <p>■オフィスアワー 水曜日を除くお昼休憩</p>	

科目名: 解析学 5b				
英文名: Analysis 5b				
担当者: 伊藤 豊治			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:特になし			アクティブ・ラーニングの形態:該当なし	
			ICT を活用したアクティブ・ラーニング:該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授業概要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1週 「ラプラス変換の定義と冪関数のラプラス変換」 [予習内容]: 広義積分と極限の計算方法を確認する(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 2週 「ラプラス変換の線形性と指数関数・三角関数のラプラス変換」 [予習内容]: 部分積分の定義とはさみうちの原理を確認する(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 3週 「単位ステップ関数とラプラス変換の相似性・移動法則」 [予習内容]: 今まで習った関数のラプラス変換を確認しておく。(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 4週 「ラプラス変換の微分法則と積分法則」 [予習内容]: n次導関数の求め方を確認する(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 5週 「ラプラス変換の小テストとその解説」 [予習内容]: 第1週から第4週までの内容を見直す(60分) [復習内容]: 間違った問題をやり直す(30分)</p> <p>第 6週 「逆ラプラス変換その1」 [予習内容]: 部分分数分解のやり方を確認しておく(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 7週 「逆ラプラス変換その2」 [予習内容]: 部分分数分解のやり方を確認しておく(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第 8週 「逆ラプラス変換の小テストとその解説」 [予習内容]: 第6週と第7週の内容を見直す(60分) [復習内容]: 間違った問題を解き直す(30分)</p> <p>第 9週 「微分方程式への応用その1」 [予習内容]: 1階線形微分方程式の様々な解き方を見直しておく(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第10週 「微分方程式への応用その2」 [予習内容]: 1階線形微分方程式の様々な解き方を見直しておく(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第11週 「たみこみ」 [予習内容]: 逆ラプラス変換のやり方を見直す(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第12週 「線形システムの伝達関数とデルタ関数」 [予習内容]: 平均値の定理の用い方を復習しておく(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第13週 「積分方程式」 [予習内容]: ラプラス変換・逆ラプラス変換を思い出しておく(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第14週 「総復習と演習その1」 [予習内容]: 配布プリントを出来る限り解いておく。(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>第15週 「総復習と演習その2」 [予習内容]: 配布プリントを出来る限り解いておく。(60分) [復習内容]: 授業内容を復習し、理解すること(30分)</p> <p>定期試験 授業の内容に基づいて筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>			<p>■授業概要・方法等 微積分学のうちで、必修科目の「数学」や「応用数学」で扱い切れない単元を修得します。</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)(A-1) 様々な関数のラプラス変換、逆変換のやり方を理解し、その応用として、微分方程式や積分方程式をラプラス変換を用いて解けるようになる。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の成績開示を個々に行う。課題については、授業中に出了た課題は授業中に行う。</p> <p>■教科書 新応用数学(大日本図書)</p> <p>■参考文献 プリントを適宜配布します。</p> <p>■関連科目 微積分学 I・II、応用数学</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験(80%)、課題(20%)</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 演習プリントを配布するので、新しい事を学んだら、次の授業まで該当部分を解く。</p> <p>■教員所在場所 本館2階企画広報</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス <a href="mailto:titoh@ktc.ac.jp">titoh@ktc.ac.jp</a></p> <p>■オフィスアワー 水曜日を除くお昼休憩</p>	

科目名: <b>法学 a</b>			
英文名: Jurisprudence a			
担当者: <b>西 孝</b>		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 地方銀行およびシンクタンクに勤務し、支店の経営、経済・産業調査を主に担当した。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期      コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「ガイダンス、法学とは、法と道徳、法と強制、法の目的等」 [予習内容]: 不要 [復習内容]: 法とは何か、法と道徳、法の強制の方式(30 分)</p> <p>第2週 「権利と義務、法の適用、裁判制度」 [予習内容]: 裁判制度(30分) [復習内容]: 三審制の目的、狙い (20 分)</p> <p>第3週 裁判の基準(法源、制定法、慣習法、判例、学説、条理) [予習内容]: 裁判の基準について (30 分) [復習内容]: 判例の裁判基準としての位置づけ(20 分)</p> <p>第4週 「法の解釈(事実認定と法の解釈、解釈の指針、解釈の方法)」 [予習内容]: 法の解釈の指針とするべきもの (30 分) [復習内容]: 法の解釈の種類(20 分)</p> <p>第5週 製造業における品質データ偽装の法的な意味 [予習]: 製造業の品質データ偽装の事例を調べる(30分) [復習]: データ偽装の法的な意味について(20分)</p> <p>第6週 「法の分類(公法と私法の区分)、実定法の体系、国家と憲法」 [予習内容]: 公法とは、私法とは(30 分) [復習内容]: 近代憲法の意味、役割(20 分)</p> <p>第7週 「日本国憲法の成立、基本原則」 [予習内容]: 日本国憲法の成立の経緯、前文を読む(30 分) [復習内容]: 日本国憲法の基本原則について(30 分)</p> <p>第8週 「国民主権、代表民主制、天皇」 [予習内容]: 憲法第1章(第1条～8条)の条文を読む(30分) [復習内容]: 天皇の国事行為について(20分)</p> <p>第9週 「平和主義、憲法改正論議と第9条」 [予習内容]: 憲法第2章を読む(20分) [復習内容]: 憲法改正論議の整理(20分)</p> <p>第10週 「基本的人権、国民の権利及び義務 その1」 [予習内容]: 第3章10条～14条を読む(30分) [復習内容]: 第14条 法の下での平等について(30分)</p> <p>第11週 「基本的人権 国民の権利及び義務 その2」 [予習内容]: 憲法第3章 15条～23 条(30分) [復習内容]: 思想、良心の自由、信教の自由について(20分)</p> <p>第12週 「基本的人権 国民の権利及び義務 その3」 [予習内容]: 憲法第3章 24 条～40 条(30分) [復習内容]: 25条について(20分)</p> <p>第13週 「権力分立 その1 第4章国会、第5章内閣」 [予習内容]: 41条～61条を読む(30分) [復習内容]: 第5章内閣(20分)</p> <p>第14週 「権力分立 その2 第6章司法、第7章財政 その他」 [予習内容]: 76条～91条を読む(30分) [復習内容]: 財政(20分)</p> <p>第15週 「まとめ、振り返り」 [予習内容]: 不要 [復習内容]: 全体の復習(2時間)</p> <p>定期試験 期末に講義内容に関する筆記試験(50分)をおこないます。</p>		<p>■授業概要・方法等 法学に関する、基本的な内容を講義します。テキストだけでなく、個人の生活やビジネスの場面における具体的なケースの紹介、新聞記事等を題材にするなどして、法との関わりを身近に感じることができる講義とします。実務経験でえた知識にもとづいて、実践的な視点からも法について解説します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、法制度や法律の基本的考え方、成り立ち、適用などについて理解し、実社会での法や制度に対する理解力、判断力を身につけることができます。 この科目の履修は、本校のディプロマポリシーDの達成に寄与するものです。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答を掲示します。また個別に答案を開示しながら、コメントします。</p> <p>■教科書 伊藤正巳・加藤一郎『現代法学入門[第4版]』有斐閣双書(ISBN4-641-11256-8) (法学bでもこの教科書を使用します)</p> <p>■参考文献 憲法、その他の条文。『プレップ法学を学ぶ前に』道垣内弘人著(弘文堂)</p> <p>■関連科目 法学 b</p> <p>■成績評価方法および基準 期末試験(1回)、方式: 記述および択一、穴埋 (成績評価の対象にはしないが、理解度確認テストをおこなう。) 90 点以上「秀」、80 点以上「優」、70 点以上 80 点未満「良」、60 点以上 70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 教科書とおよび条文の精読に加え、法改正などに関する新聞記事などからの知識吸収を心がけて欲しい。 講義中にノートをとり、それに基づいて復習をおこない、知識定着化をはかることを期待する。</p> <p>■教員所在場所 本館2階 応接室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス tnishi@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 金曜日 13:00～14:40</p>	

科目名: <b>法学 b</b>			
英文名: Jurisprudence b			
担当者: <b>西 孝</b>		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 地方銀行およびシンクタンクに勤務し、支店の経営、経済・産業調査を主に担当した。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第1週 ガイダンス、家族法、財産法について [予習内容]: 不要 [復習内容]: 家族法が規定する法律関係の概要 (30 分)</p> <p>第2週 家族法の基本原則、親族の範囲、婚姻と離婚 [予習内容]: 親族とは(30分) [復習]: 法律婚主義について (20 分)</p> <p>第3週 親子(嫡出子、非嫡出子、養子)、扶養 [予習内容]: 親子とは (30 分) [復習内容]: 扶養について(20 分)</p> <p>第4週 相続 [予習内容]: 法定相続分 (30 分) [復習内容]: 相続分の計算(20 分)</p> <p>第5週 財産法 - 内容、基本原則 [予習]: 財産法の基本原則(30分) [復習]: 契約侍従の原則について(20分)</p> <p>第6週 理解度確認テスト [予習内容]: 行為能力について(30 分) [復習内容]: 制限行為能力者制度について(20 分)</p> <p>第7週 取引の主体 [予習内容]: 行為能力について(30 分) [復習内容]: 制限行為能力者制度について(20 分)</p> <p>第8週 取引の客体(動産、不動産、物権) [予習内容]: 不動産と動産の定義について(30 分) [復習内容]: 物権の種類について(30 分)</p> <p>第9週 債権、有価証券 [予習内容]: 債権の定義(30分) [復習内容]: 債権の法的性質(20分)</p> <p>第10週 契約の種類、性質 [予習内容]: 契約の定義、契約自由の原則について(30分) [11習内容]: 契約自由の原則について(20分)</p> <p>第11週 「意思表示(錯誤、虚偽表示、無効と取消の違い)」 [予習内容]: 錯誤について(30分) [復習内容]: 無効と取消の意味、効果(30分)</p> <p>第12週 物権変動に関わる問題 [予習内容]: 物権変動の対抗要件について [復習内容]: 同時履行の抗弁権について(30分)</p> <p>第13週 契約の履行、不法行為による損害賠償 [予習内容]: 契約不履行の形態について(30分) [復習内容]: 債務不履行により発生する問題</p> <p>第14週 労働と法 [予習内容]: 労働法とは(30 分) [復習内容]: 労働基準法の役割(20分)</p> <p>第15週 「まとめ、振り返り」 [予習内容]: 不要 [復習内容]: 全体の復習(2時間)</p> <p>定期試験 期末に講義内容に基づく筆記試験(50分)をおこないます。</p>		<p>■授業概要・方法等 法学に関する基本的な内容を講義する。テキストだけでなく、個人の生活やビジネスの場面における具体的なケースの紹介、新聞記事等を題材にするなどして、法との関わりを身近に感じることができるよう講義します。その過程では、実務経験により得られた知識を用いながら理解を促します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、法制度や法律の基本的考え方、成り立ち、適用などについて理解し、実社会での法や制度に対する理解力、判断力が身につく。特に、契約に関わる基本的知識を習得し、社会人、職業人、消費者として、賢い生活をするための力が身につくようになります。 この科目の履修は、本校のディプロマポリシーDの達成に寄与するものです。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答を掲示します。また個別に答案を示しながらコメントします。</p> <p>■教科書 伊藤正巳・加藤一郎『現代法学入門[第4版]』有斐閣双書(ISBN4-641-11256-8) (法学 a と同じ教科書を使用します)</p> <p>■参考文献 憲法、民法その他の条文。『ブレップ法学を学ぶ前に』道垣内弘人著(弘文堂)</p> <p>■関連科目 法学 a</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験(期末試験1回)、記述および択一、穴埋 (成績評価の対象にはしないが、理解度確認試験をおこなう。) 定期考査成績: (期末試験)100%で評価します。 最終成績: 定期考査成績の点数とする。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 教科書および条文の精読に加え、法改正などに関する新聞記事などからの知識吸収を心がけて欲しい。 講義中にノートを取り、それに基づいて復習をおこない、知識定着化をはかることを期待します。</p> <p>■教員所在場所 本館 2 階 応接室 ■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス tnishi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜日 13:00～14:40</p>	

科目名: <b>英語特講 a</b>			
英文名: English for International Communication and Presentation a			
担当者: 福岡 玲子		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「Ch1.Sec1: The History of our school①」 [予習内容]: Sample speech を読んでプレゼンテーションを知る(60 分) [復習内容]: 復習、英語のプレゼンテーションとは(60 分)</p> <p>第 2 週 「Ch1.Sec.1: The History of our school②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(90 分) [復習内容]: 考えたスピーチを覚え、読む練習(30 分)</p> <p>第 3 週 「Ch1.Sec2: My Favorite Country①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60 分) [復習内容]: スピーチにおける話し方、表現力を知る(60 分)</p> <p>第 4 週 「Ch1.Sec2: My Favorite Country②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(90 分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(30 分)</p> <p>第 5 週 「Ch1.Sec3: The Four Basic Food Groups①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60 分) [復習内容]: スピーチにおける話し方、表現力を知る(60 分)</p> <p>第 6 週 「Ch1.Sec3: The Four Basic Food Groups②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(60 分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(60 分)</p> <p>第 7 週 「Ch1.Sec1-3 の総復習、文法、語彙表現、話し方など」 [予習内容]: ミニプレゼンテーションの練習(60 分) [復習内容]: 学習範囲の総復習、プレゼンテーションの練習(60 分)</p> <p>第 8 週 「学習範囲の試験およびミニプレゼンテーション発表」 [予習内容]: 学習範囲の総復習、ミニプレゼンテーションの練習(90 分) [復習内容]: 発表したミニプレゼンテーションの復習(30 分)</p> <p>第 9 週 「Ch1.Sec4: Japan's Education System①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60 分) [復習内容]: スピーチにおける話し方、表現力を知る(60 分)</p> <p>第10週 「Ch1.Sec4: Japan's Education System②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(60 分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(60 分)</p> <p>第11週 「Ch1.Sec5: What is Science?①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60 分) [復習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(60 分)</p> <p>第12週 「Ch1.Sec5: What is Science?②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(60 分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(60 分)</p> <p>第13週 「Ch1.Sec4-5 の総復習、文法、語彙表現、話し方など」 [予習内容]: ミニプレゼンテーションの練習、スピーチ原稿について考える(60 分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(30 分)</p> <p>第14週 「学習範囲の試験、作成したプレゼンテーションの確認及び練習」 [予習内容]: 学習範囲の総復習(60 分) [復習内容]: 学習範囲の総復習、プレゼンテーションの練習(60 分)</p> <p>第15週 「プレゼンテーションの発表」 [予習内容]: プレゼンテーションの暗記および音読練習(90 分) [復習内容]: 発表したプレゼンテーションの復習(30 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 小グループによる実践的かつ自発的な英会話を通して、国際コミュニケーションのための英語を習得します。具体的には、一人で行う場合、パワーポイント資料を用いて 5 分間の、チームで行う場合、3 名一組で 10 分間、原稿を見ずに英語プレゼンテーションおよび英語での質疑応答ができるよう訓練します。また、希望者は、高専英語プレゼンテーション近畿地区大会の参加者に応募できます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(D-1) 英語の学習を通して、異文化に対する理解を深める。 2. (E-G2)(E-2) 英語のスピーキング能力を向上させる。 3. (E-G2)(E-2) 英語のリスニング能力を向上させる。 ことができるようになります。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行う。プレゼンテーション、課題については実施後にその評価点を個々に開示。</p> <p>■教科書 杉田 由仁/リチャードキヤラカー著 Writing for Presentations in English ～ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎～ 南雲堂 ISBN978-4-523-17731-9</p> <p>■参考文献</p> <p>■関連科目 英語 1、英語 2、英語 3、英語 4、TOEIC プラス、外国語文献購読</p> <p>■成績評価方法および基準 In Class Examination 40% In Class Presentation 40% 作業プリント、ノート、その他授業に関連する課題など 20%</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習は教科書および Handouts and worksheets など指定の英文を熟読し、分からない単語などは随時辞書などで調べて自分なりに理解をする。復習は授業時に学習した内容を見直し、理解をさらに深めてくること、また自信をもって発表できる能力が評価対象のため、プレゼンテーション英文の音読を反復練習すること。</p> <p>■教員所在場所 2 号館 2 階 共通教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス fukuoka@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日(12:25～12:55)</p>	

科目名: <b>英語特講 b</b>			
英文名: English for International Communication and Presentation b			
担当者: 福岡 玲子		開講年度: 2019年度(平成31年度)	
実務経験の内容: なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
「授業タイトル」			
第1週 「Ch1.Sec6: Social Networking Services①」 [予習内容]: Sample speech を読んでプレゼンテーションを知る(60分) [復習内容]: 復習、英語のプレゼンテーションとは(60分)		■授業概要・方法等 小グループによる実践的かつ自発的な英会話を通して、国際コミュニケーションのための英語を習得します。具体的には、一人で行う場合、パワーポイント資料を用いて5分間の、チームで行う場合、3名一組で10分間、原稿を見ずに英語プレゼンテーションおよび英語での質疑応答ができるよう訓練します。また、希望者は、高専英語プレゼンテーション近畿地区大会の参加者に応募できます。	
第2週 「Ch1.Sec6: Social Networking Services ②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(90分) [復習内容]: 考えたスピーチを覚え、読む練習(30分)		■使用言語 日本語	
第3週 「Ch2.Sec3: Global Warming: What Is To Be Done?①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60分) [復習内容]: スピーチにおける話し方、表現力を知る(60分)		■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(D-1) 英語の学習を通して、異文化に対する理解を深める。 2. (E-G2)(E-2) 英語のスピーキング能力を向上させる。 3. (E-G2)(E-2) 英語のリスニング能力を向上させる。 ことができるようになります。	
第4週 「Ch2.Sec3: Global Warming: What Is To Be Done?②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(90分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(30分)		■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行う。プレゼンテーション、課題については実施後にその評価点を個々に開示。	
第5週 「Ch2.Sec6: Hybrid or Electric?①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60分) [復習内容]: スピーチにおける話し方、表現力を知る(60分)		■教科書 杉田 由仁/リチャードキャラカー著 Writing for Presentations in English ~ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎~ 南雲堂 ISBN978-4-523-17731-9	
第6週 「Ch2.Sec6: Hybrid or Electric?②」 [予習内容]: テーマに沿ったスピーチの骨格を考える(60分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(60分)		■参考文献	
第7週 「Section1-3の総復習、文法、語彙表現、話し方など」 [予習内容]: ミニプレゼンテーションの練習(60分) [復習内容]: 学習範囲の総復習、プレゼンテーションの練習(60分)		■関連科目 英語1、英語2、英語3、英語4、TOEICプラス、外国語文献購読	
第8週 「学習範囲の試験およびミニプレゼンテーション発表」 [予習内容]: 学習範囲の総復習、ミニプレゼンテーションの練習(90分) [復習内容]: 発表したミニプレゼンテーションの復習(30分)		■成績評価方法および基準 In Class Examination 40% In Class Presentation 40% 作業プリント、ノート、その他授業に関連する課題など 20%	
第9週 「Ch3.Sec1: Informative Presentations①」 [予習内容]: Sample speech を読んで理解学習する(60分) [復習内容]: スピーチにおける話し方、表現力を知る(60分)		■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習は教科書および Handouts and worksheets など指定の英文を熟読し、分からない単語などは随時辞書などで調べて自分なりに理解をする。復習は授業時に学習した内容を見直し、理解をさらに深めていくこと、また自信をもって発表できる能力が評価対象のため、プレゼンテーション英文の音読を反復練習すること。	
第10週 「Ch3.Sec1: Informative Presentations②」 [予習内容]: Sample Speech の熟読理解(60分) [復習内容]: Sample Speech の英文を理解し復習(60分)		■教員所在場所 2号館2階 共通教員室	
第11週 「Ch3.Sec1: Informative Presentationsの学習範囲試験」 [予習内容]: Sample Speech を熟読および深く理解する(90分) [復習内容]: 試験範囲の復習		■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。	
第12週 「Ch3.Sec1: Informative Presentations③プレゼンテーションパターンの学習」 [予習内容]: brainstorming による考察、調査(30分) [復習内容]: 考察、調査をもとにプレゼンテーションの構成案を考える(90分)		■メールアドレス fukuoka@kct.ac.jp	
第13週 「Ch3.Sec1: Informative Presentations④プレゼンテーション構成案をもとに組み立て」 [予習内容]: プレゼンテーションの練習、スピーチ原稿について考える(60分) [復習内容]: 作成したスピーチを覚え、読む練習(30分)		■オフィスアワー 月曜日(12:25~12:55)	
第14週 「作成したプレゼンテーションの確認および発表」 [予習内容]: プレゼンテーションの暗記および音読練習(90分) [復習内容]: 発表したプレゼンテーションの復習(30分)			
第15週 「作成したプレゼンテーションの確認および発表」 [予習内容]: プレゼンテーションの暗記および音読練習(90分) [復習内容]: 発表したプレゼンテーションの復習(30分)			



科目名: TOEIC プラス a			
英文名: TOEIC PLUS a			
担当者: 高畑 時子		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 国公立及び私立大学・大学院における 10 年間以上に渡る教育歴。2019 年より市民講座も担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期      コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
「授業タイトル」			
第 1 週 Introduction [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■授業概要・方法等 授業の初回は模試を行い、出席者の現スコアをまず把握するので、必ず参加すること。 TOEIC の最新の公式模試を正確に、かつ沢山解くことで TOEIC の問題に慣れ、TOEIC 450 点以上取得を目標に準備しながら、リスニング・語彙力・文法力・読解力など英語力を総合的に向上させる。基本的には教科書通りに進むが、TOEIC 特有の英熟語の小テストを毎回行うことにより、効率良く目標点を達成できるようにする。	
第 2 週 TEST 1, Listening: Part 1, Reading: Part 5 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■使用言語 日本語 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)(E-2) TOEIC 頻出単語に慣れ、450 点取得に必要な 300 語を覚える。 2. (E-G2)(E-2) TOEIC の問題形式に慣れ、問題を正確により早く解く。 3. (E-G2)(E-2) リスニング問題をディクテーション、レシテーションを行いつつ解くことにより、聴解力を養う。さらに、オーバーラッピング、シャドウイングも行うことにより、聴解力だけでなく、読解力、速読力およびスピーキングやライティング力も含めた英語力を総合的に高める。	
第 3 週 TEST 1, Listening: Part 2, Reading: Part 6 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		ことができるようになる。	
第 4 週 TEST 1, Listening: Part 3 (1), Reading: Part 7 (1, Single Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与している。	
第 5 週 TEST 1, Listening: Part 3 (2), Reading: Part 7 (2, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行う。 課題は次の授業時に回収してチェックを行い、添削・採点の上、返却。	
第 6 週 TEST 1, Listening: Part 4 (1), Reading: Part 7 (3, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■教科書 ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4』 ISBN: 9784906033546 TEX 加藤『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ)』、朝日新聞出版 ISBN: 9784023315686	
第 7 週 TEST 1, Listening: Part 4 (2), Reading: Part 7 (4, Triple Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■参考文献 英和辞書を持参のこと。	
第 8 週 TOEIC 模試 (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■関連科目 本科: 英語 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験 (1 回), 方式: 記述式 定期試験成績: 定期テスト 80%、小テスト 20% の割合で評価する。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」とする。 なお、TOEIC 公開テストか IP テストのいずれかでスコアが 400 点以上取得すれば「秀」、350 点以上「優」、300 点以上「良」、250 点以上「可」とし、定期試験と比較して良い方を最終評価とする。	
第 9 週 TEST 2, Listening: Part 1, Reading: Part 5 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		最終成績: 定期考査成績の通り。	
第 10 週 TEST 2, Listening: Part 2, Reading: Part 6 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習は、毎回行う単語テストに備え、提示された範囲の単語を暗記してくる。また、次に進む範囲の不明な単語を予め辞書で調べてくること。	
第 11 週 TEST 2, Listening: Part 3 (1), Reading: Part 7 (1, Single Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		復習は、授業時に学習した内容を見直し、特に間違えた問題に対しては、なぜ間違えたのかというところをしっかりと見直し、授業で指定された、単語、熟語、表現を覚えておくこと。	
第 12 週 TEST 2, Listening: Part 3 (2), Reading: Part 7 (2, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■教員所在場所 図書館 2F 学習指導室 ■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施。	
第 13 週 TEST 2, Listening: Part 4 (1), Reading: Part 7 (3, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)		■メールアドレス takahata@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日(3:30～4:15)と木曜日(3:30～4:15)	
第 14 週 TEST 2, Listening: Part 4 (2), Reading: Part 7 (4, Triple Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 15 週 TOEIC 模試 (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
定期試験 第 1～15 週の内容に関する筆記試験実施(試験時間 50 分)			

科目名: <b>TOEIC プラス b</b>				
英文名: TOEIC PLUS b				
担当者: 高畑 時子			開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 国公立及び私立大学・大学院における 10 年間以上に渡る教育歴。2019 年より市民講座も担当。			アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし				
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1.5	単位の種別: 履修		
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)			授 業 概 要	
「授業タイトル」				
第 1 週	Introduction [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)	<p>■授業概要・方法等 授業の初回は模試を行い、出席者の現スコアをまず把握するので、必ず参加すること。 TOEIC の最新の公式模試を正確に、かつ沢山解くことで TOEIC の問題に慣れ、TOEIC 600 点以上取得を目標に準備しながら、リスニング・語彙力・文法力・読解力など英語力を総合的に向上させる。基本的には教科書通りに進むが、TOEIC 特有の英熟語の小テストを毎回行うことにより、効率良く目標点を達成できるようにする。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(E-G2)(E-2) TOEIC 頻出単語に慣れ、600 点取得に必要な 500 語を覚える。</li> <li>(E-G2)(E-2) TOEIC の問題形式に慣れ、問題を正確により早く解く。</li> <li>(E-G2)(E-2) リスニング問題をディクテーション、レシテーションを行いつつ解くことにより、聴解力を養う。さらに、オーバーラッピング、シャドウイングも行うことにより、聴解力だけでなく、読解力、速読力およびスピーキングやライティング力も含めた英語力を総合的に高める。</li> </ol> <p>ことができるようになる。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与している。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行う。 課題は次の授業時に回収してチェックを行い、添削・採点の上、返却。</p> <p>■教科書 ETS『公式 TOEIC Listening &amp; Reading 問題集』(5 が出版されたら使用) ISBN: 不明 TEX 加藤『TOEIC L&amp;R TEST 出る単語急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ)』、朝日新聞出版 ISBN: 9784023315686</p> <p>■参考文献 英和辞書を持参のこと。</p> <p>■関連科目 本科: 英語</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期テスト 80%、小テスト 20% の割合で評価する。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」とする。 なお、TOEIC 公開テストか IP テストのいずれかでスコアが 400 点以上取得すれば「秀」、350 点以上「優」、300 点以上「良」、250 点以上「可」とし、定期試験と比較して良い方を最終評価とする。 最終成績: 定期考査成績の通り。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習は、毎回行う単語テストに備え、提示された範囲の単語を暗記してくる。また、次に進む範囲の不明な単語を予め辞書で調べてくること。 復習は、授業時に学習した内容を見直し、特に間違えた問題に対しては、なぜ間違えたのかというところをしっかりと見直し、授業で指定された、単語、熟語、表現を覚えておくこと。</p> <p>■教員所在場所 図書館 2F 学習指導室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施。</p> <p>■メールアドレス takahata@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 火曜日(3:30～4:15)と木曜日(3:30～4:15)</p>		
第 2 週	TEST 1, Listening: Part 1, Reading: Part 5 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 3 週	TEST 1, Listening: Part 2, Reading: Part 6 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 4 週	TEST 1, Listening: Part 3 (1), Reading: Part 7 (1, Single Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 5 週	TEST 1, Listening: Part 3 (2), Reading: Part 7 (2, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 6 週	TEST 1, Listening: Part 4 (1), Reading: Part 7 (3, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 7 週	TEST 1, Listening: Part 4 (2), Reading: Part 7 (4, Triple Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 8 週	TOEIC 模試 (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 9 週	TEST 2, Listening: Part 1, Reading: Part 5 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 10 週	TEST 2, Listening: Part 2, Reading: Part 6 [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 11 週	TEST 2, Listening: Part 3 (1), Reading: Part 7 (1, Single Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 12 週	TEST 2, Listening: Part 3 (2), Reading: Part 7 (2, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 13 週	TEST 2, Listening: Part 4 (1), Reading: Part 7 (3, Double Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 14 週	TEST 2, Listening: Part 4 (2), Reading: Part 7 (4, Triple Passage) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
第 15 週	TOEIC 模試 (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し見直しすること (60 分)			
定期試験 第 1～15 週の内容に関する筆記試験実施(試験時間 50 分)				

科目名: 外国文献講読 a			
英文名: English Reading a			
担当者: 藤川 雅行		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:貿易会社輸出担当として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
予備校・塾・公立高校で授業を担当。		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期 コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
「授業タイトル」		■授業概要・方法等	
第 1 週 Introduction	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	理工系の学生に必要な基礎的な概念や、英語の使い方を学習し、英語論文頻出の文章を英訳するとともに、専門的な表現を用いて論文が書けるように、アカデミック・ライティングのスキルも取得することを旨とする。理系の文章の特徴である、情報と意見の伝達だけを目的とする執筆能力の向上を図る。	
第 2 週 Lesson 1: SHAPES 平面図と立体図 (1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■使用言語 英語 日本語	
第 3 週 Lesson 1: SHAPES 平面図と立体図 (2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、	
第 4 週 Lesson 2: PROPERTIES I 物質の特性と状態の変化 (1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	1. 科学技術英語への関心を高める。 2. 科学技術英語特有の基礎的な単語や表現を学ぶ。 3. 科学技術英語の基礎的な構文を学ぶ。 4. 科学技術英語の文章作成能力を高める。	
第 5 週 Lesson 2: PROPERTIES I 物質の特性と状態の変化 (2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■試験に対するフィードバック方法 試験終了後、模範解答と解説を行う。	
第 6 週 Lesson 3: LOCATION 平面図の位置、立体的な位置 (1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■教科書 小林忠夫、藤枝美徳、須川亜紀子『General Science』、南雲堂 ISBN 4-523-17276-5	
第 7 週 Lesson 3: LOCATION 平面図の位置、立体的な位置 (2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■参考文献 山口喬『科学英語を書く 論文英訳のポイント』、培風館 ISBN 4-563-02079-6 井上章『手ぎわよい技術英文書の仕上げ方』、共立出版 ISBN 4-320-00805-7	
第 8 週 Lesson 4: PROPERTIES II 部分の名前とかたち (1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■関連科目 本科:英語 1~3 英語演習全般	
第 9 週 Lesson 4: PROPERTIES II 部分の名前とかたち (2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■成績評価方法および基準 定期テスト 50% 授業内発表 30% 小テスト 20% 90 点以上「秀」、80 点以上 90 点未満「優」、70 点以上 80 点未満「良」 60 点以上 70 点未満「可」、60 点未満「不可」とする。	
第 10 週 Lesson 5: STRUCTURE I 部分と全体、各部分のつながり(1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 予習は指定教科書の単語及び英文を熟読し、わからないところは辞書で調べておくこと。 復習は授業時に間違えた問題や、正解に導けなかったところに重点を置き理解に努めること。	
第 11 週 Lesson 5: STRUCTURE I 部分と全体、各部分のつながり(2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■教員所在場所 2 号館 2 階共通教育室	
第 12 週 Lesson 6: STRUCTURE II 材料とその構成要素 (1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第一回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。	
第 13 週 Lesson 6: STRUCTURE II 材料とその構成要素 (2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)	■メールアドレス 藤川 fujikawa@kctc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜日 11:30~12:00	
第 14 週 Lesson 7: MEASUREMENT I 図形の大きさの測り方 (1)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)		
第 15 週 Lesson 7: MEASUREMENT I 図形の大きさの測り方 (2)	[予習内容]:不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]:間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)		
定期試験 第 1 回から第 15 回までの授業内容について筆記試験を行う。(50 分)			

科目名: 外国文献講読 b			
英文名: English Reading b			
担当者: 藤川 雅行		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:貿易会社輸出担当として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
予備校・塾・公立高校で授業を担当。		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	後期 コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 Introduction [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 2 週 Lesson 8: PROCESS I 自動車のパーツと実験用具 (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 3 週 Lesson 8: PROCESS I 自動車のパーツと実験用具 (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 4 週 Lesson 9: PROCESS II 能力を表すことばと身体の機能 (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 5 週 Lesson 9: PROCESS II 能力を表すことばと身体の機能 (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 6 週 Lesson 10: PROCESS III 順序や前後関係の表し方 (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 7 週 Lesson 10: PROCESS III 順序や前後関係の表し方 (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 8 週 Lesson 11: PROCESS IV 植物や水のサイクル (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第 9 週 Lesson 11: PROCESS IV 植物や水のサイクル (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第10週 Lesson 12: QUANTITY 数量を表すことば (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第11週 Lesson 12: QUANTITY 数量を表すことば (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第12週 Lesson 13 CAUSE AND EFFECT I 動作とその効果 (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第13週 Lesson 13 CAUSE AND EFFECT I 動作とその効果 (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第14週 Lesson 14 CAUSE AND EFFECT II パルプのはたらき (1) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>第15週 Lesson 14 CAUSE AND EFFECT II パルプのはたらき (2) [予習内容]: 不明な単語を調べ、本文の大意を掴むこと(60 分) [復習内容]: 間違えた問題を再考し、見直しすること(60 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から第 15 回までの授業内容について筆記試験を行う。(50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 理工系の学生に必要な基礎的な概念や、英語の使い方を学習し、英語論文頻出の文章を英訳するとともに、専門的な表現を用いて論文が書けるように、アカデミック・ライティングのスキルも取得することを旨とする。理系の文章の特徴である、情報と意見の伝達だけを目的とする執筆能力の向上を図る。</p> <p>■使用言語 英語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学技術英語への関心を高める。</li> <li>2. 科学技術英語特有の基礎的な単語や表現を学ぶ。</li> <li>3. 科学技術英語の基礎的な構文を学ぶ。</li> <li>4. 科学技術英語の文章作成能力を高める。</li> </ol> <p>■試験に対するフィードバック方法 試験終了後、模範解答と解説を行う。</p> <p>■教科書 小林忠夫、藤枝美徳、須川亜紀子『General Science』、南雲堂 ISBN 4-523-17276-5</p> <p>■参考文献 山口喬『科学英語を書く 論文英訳のポイント』、培風館 ISBN 4-563-02079-6 井上章『手ぎわよい技術英文書の仕上げ方』、共立出版 ISBN 4-320-00805-7</p> <p>■関連科目 本科:英語 1~3 英語演習全般</p> <p>■成績評価方法および基準 定期テスト 50% 授業内発表 30% 小テスト 20% 90 点以上「秀」、80 点以上 90 点未満「優」、70 点以上 80 点未満「良」 60 点以上 70 点未満「可」、60 点未満「不可」とする。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 予習は指定教科書の単語及び英文を熟読し、わからないところは辞書で調べておくこと。 復習は授業時に間違えた問題や、正解に導けなかったところに重点を置き理解に努めること。</p> <p>■教員所在場所 2 号館 2 階共通教育室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。第一回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス 藤川 fujikawa@kctc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜日 11:30~12:00</p>	

科目名: <b>中国語 初級 a</b>			
英文名: Chinese(beginner's class)a			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、通訳、翻訳として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 ガイダンス(中国語の概要及び授業の進め方) 予習内容: 中国語の文字、文法の特徴について調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 2 週 発音編(音節の成り立ち、母音1) 予習内容: 中国語音節の成り立ち、声調、基本になる母音について調べること。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 3 週 発音編(子音、母音2) 予習内容: 子音、複合母音について調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 4 週 発音編(母音3) 予習内容: 鼻音を伴う母音、軽声、発音の r 化について調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 5 週 発音編(声調の変化、音節のつづり方1) 予習内容: 第3声の変化、音節のつづり方について調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 6 週 発音編(音節のつづり方2) 予習内容: 音節のつづり方、声調符号の位置について調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 7 週 発音編(発音の総合練習) 予習内容: 有気音と無気音の違い、単語や挨拶語の読み方について調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 8 週 ここまでの発音編について総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べること(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 9 週 第1課 人称代名詞、挨拶語、名字の聞き方 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第10週 第2課 感謝、お詫びの表現、別れの挨拶 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第11週 第3課 名前の聞き方、常用名字と名前 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第12週 第1課～第3課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。</p> <p>第13週 第4課 名詞述語文、“不”の声調変化、“也”の使い方 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第14週 第5課 反復疑問文、副詞“都” 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第15週 総復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(筆記時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: この授業は初めて中国語を勉強するものを対象とし、中国語の発音から基本文型と初歩的な会話を学ぶ。授業は前半において発音・声調を集中的に習い、後半は挨拶語や名詞述語文を中心に基礎文法を修得しつつ、初歩的な会話練習を繰り返すことによって、発音・声調と基礎文型の習熟度を高めていく。</p> <p>授業方法: ①日本語ローマ字と比べながらピンインを教える。 ②各課の文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせる。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 ① (E-G2)(E-2) 言語学、音韻学的に中国語を理解し、中国語の基礎学力を身につける。 ②(E-G2)(E-2)中国語発音記号(ピンイン)を知る、書く、聞く、話す。 ③(E-G2)(E-2)字引きを利用する。 ④(E-G2)(E-2)中国語で挨拶する。 ⑤(E-G2)(E-2)簡単な自己紹介をする。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答する。</p> <p>■教科書 鈴木律子著〔標準高校中国語〕白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式, リスニング 定期考査成績: 定期試験(100%) (中間) 記述式 70%、リスニング 30%。 (期末) 記述式 60%、リスニング 30%。 夏季課題(プリント) 10%。(期末点に加算します。) 最終成績 : 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90 点以上 「秀」、80 点以上～90 点未満 「優」、70 点以上～80 点未満 「良」、60 点以上～70 点未満 「可」、60 点未満 「不可」と評定します。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習や復習を行い、テキストのCDを繰り返し聞き、毎回授業で習ったピンイン、単語、文を何度も発音して覚えること。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(12:15～12:40)</p>	

科目名: <b>中国語 初級b</b>			
英文名: Chinese(beginner's class)b			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2019年度(平成31年度)	
実務経験の内容: 中国出身、通訳、翻訳として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 第6課 指示代詞、疑問詞“什么”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第2週 第6課 指示代詞、疑問詞“什么”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第3週 第7課 所属・所有、指示代詞(複数)、疑問詞“谁”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第4週 第7課 所属・所有、指示代詞(複数)、疑問詞“谁”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第5週 第6課～第7課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第6週 第8課 動詞述語文、“呢”を用いた疑問文(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第7週 第8課 動詞述語文、“呢”を用いた疑問文(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第8週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べる(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第9週 第9課 形容詞述語文、反復疑問文2(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第10週 第9課 形容詞述語文、反復疑問文2(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第11週 第10課 所有を表す“有”、10までの数字、お金の単位(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第12週 第10課 所有を表す“有”、10までの数字、お金の単位(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第13週 第11課 動詞“在”、“一”の声調変化(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第14週 第11課 動詞“在”、“一”の声調変化(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第15週 総復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(筆記時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 前期に引き続き、述語文を一通り学び、指示代詞、疑問詞、所属・所有、数字などの使い方について学習する。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教える。 ②各課の文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせる。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 ①(E-G2)(E-2)新出単語を書く。 ②(E-G2)(E-2)各課の文法事項を理解する。 ③(E-G2)(E-2)各課の本文を読む、書く、話す、聞く。 ④(E-G2)(E-2)学習した単語や文型を利用して、簡単な文を書く。 ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答する。</p> <p>■教科書 鈴木律子著〔標準高校中国語〕白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式, リスニング 定期考査成績: 定期試験(100%) (中間)記述式70%、リスニング30%。 (期末)記述式70%、リスニング30%。</p> <p>最終成績: 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90点以上「秀」、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」と評定します。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習や復習を行い、テキストの音声CDを繰り返し聞き、毎回授業で習った単語、文を何度も発音して覚えること。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(12:15～12:40)</p>	

科目名: <b>中国語 中級 a</b>			
英文名: Chinese(intermediate class)a			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、通訳、翻訳として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第12課 助数詞、曜日 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 2 週 第12課 助数詞、曜日 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 3 週 第13課 疑問代詞、動詞の重ね方、10以上の数字 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 4 週 第13課 疑問代詞、動詞の重ね方、10以上の数字 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 5 週 第12課～第13課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 6 週 第14課 時間、状態の変化“了” (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 7 週 第14課 時間、状態の変化“了” (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べること(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 9 週 第15課 月日・曜日の表し方、“太”の使い方 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第10週 第15課 月日・曜日の表し方、“太”の使い方 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第11週 第16課 時を表す文、一日の行動 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第12週 第16課 時を表す文、一日の行動 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第13週 第17課 時間を表す語2、“喜欢”の使い方(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第14週 第17課 時間を表す語2、“喜欢”の使い方(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第15週 総復習 予習内容: 第9週から第14週で学習した内容を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(筆記時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 「中国語初級」で習得した発音を定着させつつ、基礎文法、基礎語彙、基礎会話を習得する。それにより中国語コミュニケーション基礎表現力の向上を図る。 前期において、場所、時間、月日、曜日の表し方や疑問代詞、助数詞、動詞の重ね型などについて学習する。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教える。 ②単語、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせる。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 ①(E-G2)(E-2)新出単語を書く。 ②(E-G2)(E-2)各課の文法事項を理解する。 ③(E-G2)(E-2)各課の本文を読む、書く、話す、聞く。 ④(E-G2)(E-2)学習した単語や文型を利用して、文を書く。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答する。</p> <p>■教科書 鈴木律子〔標準高校中国語〕白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式, リスニング 定期考査成績: 定期試験(100%) (中間)記述式 70%、リスニング 30%。 (期末)記述式 60%、リスニング 30%。 夏季課題(プリント) 10%。(期末点に加算します。) 最終成績 : 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90 点以上 「秀」、80 点以上～90 点未満 「優」、70 点以上～80 点未満 「良」、60 点以上～70 点未満 「可」、60 点未満 「不可」と評定します。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習や復習を行い、テキストの音声CDを繰り返し聞き、毎回授業で習った単語、文を何度も発音して覚えること。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(12:15～12:40)</p>	

科目名: 中国語 中級 b			
英文名: Chinese(intermediate class)b			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、通訳、翻訳として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第 18 課 完了の表現、“怎么”、前置詞“给”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 2 週 第 18 課 完了の表現、“怎么”、前置詞“给”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 3 週 第 19 課 連動文、過去の経験、伝聞を表す“听说”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 4 週 第 19 課 連動文、過去の経験、伝聞を表す“听说”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 5 週 第 18 課～第 19 課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 6 週 第 20 課 “可以”、“想”、中国の外来語(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 7 週 第 20 課 “可以”、“想”、中国の外来語(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 8 週 第 1 週～第 7 週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第 1 週から第 7 週で習ったことについて調べる(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 9 週 第 21 課 “会”、“能”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 10 週 第 21 課 “会”、“能”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 11 週 第 21 課の復習 予習内容: 第 21 課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 12 週 第 22 課 助動詞“要”、前置詞“跟”、“在”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 13 週 第 22 課 助動詞“要”、前置詞“跟”、“在”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 14 週 第 22 課の復習 予習内容: 第 22 課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 15 週 総復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>定期試験: 第 1 回から 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(筆記時間 50 分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 前期に引き続き、完了や経験などを表す文、連動文、伝聞の表現、助動詞や前置詞などについて学習する。</p> <p>授業方法: ① 中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教える。 ② 各課の基本文型や文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせる。 ③ 練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 ① (E-G2)(E-2) 新出単語を書く。 ② (E-G2)(E-2) 各課の文法事項を理解する。 ③ (E-G2)(E-2) 各課の本文を読む、書く、話す、聞く。 ④ (E-G2)(E-2) 学習した単語や文型を利用して、文を書く。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答する。</p> <p>■ 教科書 鈴木律子〔標準高校中国語〕白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■ 参考文献 その他の教材。</p> <p>■ 関連科目 特にありません。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回) 方式: 記述式, リスニング 定期考査成績: 定期試験(100%) (中間) 記述式 70%、リスニング 30%。 (期末) 記述式 70%、リスニング 30%。</p> <p>最終成績 : 2 回の定期考査の成績の平均点とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」と評定します。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習や復習を行い、テキストの音声 CD を繰り返し聞き、毎回授業で習った単語、文を何度も発音して覚えること。</p> <p>■ 教員所在場所 図書館 1 階 職員室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■ メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 土曜日(12:15～12:40)</p>	



科目名: <b>中国語 上級 a</b>			
英文名: Chinese( upper class)a			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、通訳、翻訳として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第23課 持続の表現、動作の回数“次”、方位詞 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 2 週 第23課 持続の表現、動作の回数“次”、方位詞 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 3 週 第24課 進行を表す“在” (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 4 週 第24課 進行を表す“在” (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 5 週 第23課～第24課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 6 週 第25課 主述述語文、助動詞“要” (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 7 週 第25課 主述述語文、助動詞“要” (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べる(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 9 週 第26課 前置詞“離”、副詞“就”の使い方 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第10週 第26課 前置詞“離”、副詞“就”の使い方 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第11週 第26課の復習 予習内容: 第26課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第12週 第27課 程度補語、選択疑問文 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第13週 第27課 程度補語、選択疑問文 (二) 予習内容: 第27課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 本文を翻訳しておく。(60分)</p> <p>第14週 第27課の復習 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第15週 総復習 予習内容: 第9週から第14週で学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(筆記時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 「中国語初級」、「中国語中級」で習得した発音、基礎文法、基礎語彙を定着させつつ、更なる文法事項や語彙、会話表現を習得する。 前期において、持続、進行を表す文や主述述語文、選択疑問文、方位詞、程度補語、前置詞“離”、副詞“就”などの使い方について学習する。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教える。 ②各課の基本文型や文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせる。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 ①(E-G2)(E-2)新出単語を書く。 ②(E-G2)(E-2)各課の文法事項を理解する。 ③(E-G2)(E-2)各課の本文を読む、書く、話す、聞く。 ④(E-G2)(E-2)学習した単語や文型を利用して、文を書く。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答する。</p> <p>■教科書 鈴木律子(標準高校中国語)白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式、リスニング 定期考査成績: 定期試験(100%) (中間)記述式 70%、リスニング 30%。 (期末)記述式 60%、リスニング 30%。 夏季課題(プリント) 10%。(期末点に加算します。) 最終成績 : 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」と評定します。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習や復習を行い、テキストの音声CDを繰り返し聞き、毎回授業で習った単語、文を何度も発音して覚えること。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。 第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜日(12:15～12:40)</p>	

科目名: 中国語 上級 b			
英文名: Chinese( upper class)b			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、通訳、翻訳として勤務。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第28課 “是・・・的”の文、二重目的語の文 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 2 週 第28課 “是・・・的”の文、二重目的語の文 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 3 週 第29課 比較の文 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 4 週 第29課 比較の文 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 5 週 第28課～第29課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第 6 週 第30課 結果補語、前置詞“从” (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 7 週 第30課 結果補語、前置詞“从” (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べる(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第 9 週 第31課 方向補語、自然現象の表し方 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第10週 第31課 方向補語、自然現象の表し方 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第11週 第31課の復習 予習内容: 第31課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第12週 第32課 “打算”、“祝”の使い方 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第13週 第32課 “打算”、“祝”の使い方 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(60分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(30分)</p> <p>第14週 第32課の復習 予習内容: 第32課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>第15週 総復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(60分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(30分)</p> <p>定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。 (筆記時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 後期において、過去の事実、2つ目的語をとる動詞、比較、結果補語、形容詞などについて学習する。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教える。 ②各課の基本文型や文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせる。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげる。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 ①(E-G2)(E-2)新出単語を書く。 ②(E-G2)(E-2)各課の文法事項を理解する。 ③(E-G2)(E-2)各課の本文を読む、書く、話す、聞く。 ④(E-G2)(E-2)学習した単語や文型を利用して、文を書く。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答する。</p> <p>■教科書 鈴木律子[標準高校中国語]白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式, リスニング 定期考査成績: 定期試験(100%) (中間)記述式 70%、リスニング 30%。 (期末)記述式 70%、リスニング 30%。</p> <p>最終成績 : 2回の定期考査の成績の平均点とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」と評定します。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習や復習を行い、テキストの音声CDを繰り返し聞き、毎回授業で習った単語、文を何度も発音して覚えること。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。 第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(12:15～12:40)</p>	

科目名: <b>韓国語 Ia</b>			
英文名: Korean Language Ia			
担当者: <b>李辰淑</b>		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 非常勤講師として私立高校、県立高校に勤めていた		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期      コース: 全
科目種別: 選択	単位数: I	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「韓国の紹介」 1 課: 韓国語とは ハングル文字のしくみ 文字と発音(1)単母音、初声 1(鼻音・流音)、 [予習内容]:ハングル文字の仕組みを事前に調べる [復習内容]:授業内容を復習して(WEB 映像+音声を参考) 基本文字を覚える</p> <p>第 2 週 「1 課: 文字と発音(1)単母音、初声 1(鼻音・流音) 半母音+単母音、終声 1」 [予習内容]:1 課 WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して基本文字を覚える。</p> <p>第 3 週 「1 課応用と復習」 「2 課: 文字と発音(2)初声 2(平音)発音の規則、有声音化」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して基本文字を覚える。</p> <p>第 4 週 「2 課: 文字と発音(2)、初声 2(平音)発音の規則・有声音化」 半母音+単母音 (二重母音)、連音化 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して基本文字を覚える。</p> <p>第 5 週 「3 課: 文字と発音(3)初声 3(激音)、初声 4 (濃音)」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して基本文字を覚える。</p> <p>第 6 週 「3 課:」終声 2、濃音化 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して基本文字を覚える。</p> <p>第 7 週 「1 課～3 課までの応用と復習」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 8 週 「4 課 韓国人です。鼻音化、～は、～です。～ですか？」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 9 週 「答案返却と解答」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 10 週 「4 課: ～と申します。～といいます。」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 11 週 「5 課: 韓国語は専攻ではありません ～が、丁寧表現 ～です。～ですか? 激音化」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 12 週 「5 課 ～ではありません。」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 13 週 「6 課: 講義室は階段の横にあります。漢教詞」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 14 週 「6 課: ～に ～あります。～ありません。～いません。」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 15 週 「4 課～6 課までの応用と復習。」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>定期試験 第 1 週から第 8 週までの講義内容及び第 9 週から第 15 週までの講義内容について筆記とリスニング試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 テキストを中心に日本語の あ、い、う、え、お、にあたる韓国語の単母音から覚え始め、読み、書き、聞き取り、基礎力をしっかり正確に身につける事を目標にする。</p> <p>■使用言語 日本語 韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)韓国語を確実に学んで簡単な意思卒が出来るような授業を目指し、語学力をしっかりと身につけ言葉の理解が出来るようにする。 2. (E-G2)相手の国の言葉を知らずにその国を理解することはできない、韓国の言葉を通して見えてくるその隣国の文化の理解を深める事が出来、これからの日韓の友好関係の持続の為、若者の communication 場を広げるきっかけになる事を目標にする。 この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー-B の達成に関与している。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせる。</p> <p>■教科書 (韓国語の世界へ) 入門編 ーコツコツ学び、カジュアルに話そうー 朝日出版社 ISBN978-4-255-55647-5 C1087 ￥2300+税</p> <p>■参考文献 ★Google 翻訳機、エキサイト翻訳、 ★朝鮮語辞書 小学館、金星出版社</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式、リスニング 定期考査成績: 定期試験結果の点数のみで評価します。 最終成績: 2 回の定期考査成績の平均点+夏季課題 10 点で評価します。 90 点以上(秀)、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 科目が始まる前 WEB 映像+音声をダウンロードして事前に聴いて発音に慣れる事と単語を覚える事。</p> <p>■教員所在場所 図書館 1 階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス Sook127@asint.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(8:35～12:30)</p>	

科目名：韓国語 I b			
英文名：Korean Language Ib			
担当者：李辰淑		開講年度：2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容： 非常勤講師として私立高校、県立高校に勤めていた		アクティブ・ラーニングの形態：該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング：該当なし	
工学科：総合システム	学年：5	開講期：後期	コース：全
科目種別：選択	単位数：I	単位の種別：履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却と解答」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 2 週 「第7課 :午後時間は大丈夫ですか？ へヨ体(1) 助詞 ～を ～も」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 3 週 「8課: 小学生にデコンドを教えてください。 へヨ体(2)、指示詞」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 4 週 「8課 へヨ体(2)、助詞～で 助詞 ～に(人、動物など)」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 5 週 「9課: ふつう、6時に起きます。 へヨ体(3) :～で 移動の起点 ～から、～まで。」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 6 週 「9課:固有数詞 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 7 週 「10課—野球がとても好きです。 へヨ体(4)하디用言 ～しに」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 8 週 「10課: 時の起点と終点～から～まで」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第 9 週 「へヨ体1, 2, 3, 4の応用と復習」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容] 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第10週 「答案返却と解答」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第11週 「11課 : 昼ごはん、食べなかったですか？ 「過去形」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第12週 「11課 : 〇語幹の用言 ～しない、～くない」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第13週 「11課過去形の応用と復習」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する 復習内容: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第14週 「12課 春休みに何をしますつもりですか？ 「～されます・お～です・～でいらっしやいます。」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第15週 「12課 ～するつもりです・～するでしょう。～したい」 [予習内容]:WEB 映像+音声を聴いて理解する [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>定期試験 第 1 週から第 9 週までの講義内容及び第 10 週から第 15 週までの講義内容について筆記とリスニング試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 テキストを中心に日本語の あ、い、う、え、お、にあたる韓国語の単母音から覚え始め、読み、書き、聞き取り、基礎力をしっかり正確に身につける事を目標にする。</p> <p>■使用言語 日本語 韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)韓国語を確実に学んで簡単な意思卒が出来るような授業を目指し、語学力をしっかりと身につけ言葉の理解が出来るようにする。 2. (E-G2)相手の国の言葉を知らずにその国を理解することはできない、韓国の言葉を通して見えてくるその隣国の文化の理解を深める事が出来、これからの日韓の友好関係の持続の為、若者の communication 場を広げるきっかけになる事を目標にする。 この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与している。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせる。</p> <p>■教科書 (韓国語の世界へ) 入門編 一コツコツ学び、カジュアルに話そうー 朝日出版社 ISBN978-4-255-55647-5 C1087 ￥2300+税</p> <p>■参考文献 ★Google 翻訳機、エキサイト翻訳、 ★朝鮮語辞書 小学館、金星出版社</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式、リスニング 定期考査成績: 定期試験結果の点数のみで評価します。 最終成績: 2回の定期考査成績の平均点+冬季課題10点で評価します。 90点以上(秀)、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 科目が始まる前 WEB 映像+音声をダウンロードして事前に聴いて発音に慣れる事と単語を覚える事。</p> <p>■教員所在場所 図書館館 1 階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス Sook127@asint.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(8:35～12:30)</p>	

科目名: <b>韓国語Ⅱa</b>			
英文名: Korean Language Ⅱa			
担当者: 李辰淑		開講年度: 2019年度(平成31年度)	
実務経験の内容: 非常勤講師として私立高校、県立高校に勤めていた		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期:	前期      コース: 全
科目種別: 選択	単位数: I	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「1課: 何学番ですか?」 へヨ体1, 2, 3, 4(하디用言), <b>〇語幹の用言応用と復習</b> [予習内容]:へヨ体の基本をしっかり身につける。 [復習内容]:へヨ体現在形、過去形 単語の暗記</p> <p>第2週 「1課:へヨ体1, 2, 3, 4、〇語幹の用言応用と復習ハムニダ体」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第3週 「2課: 韓国語を一所懸命勉強するつもりです。 ～するつもりです、～するでしょう」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第4週 「2課: ～して、～くて、～で ～でしょう?」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第5週 「3課:あの靴、ちょっと見せてください。」 ～だが、～けれど、形容詞の現在連体 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第6週 「3課: ～してあげる、～してください。」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第7週 「4課: 良く行く韓国料理屋さんがあれば紹介してください。」 ～れば、～たら 動詞, 存在詞の現在連体形～する [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第8週 「4課:用言の否定文～しない、～くない、～ではない。」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第9週 「答案返却と解答」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第10週 「5課: 一緒に撮った写真を添付致しました。」 動詞の過去連体形 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第11週 「5課:～ですね。～ますね。ㄱ変則活用の用言」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第12週 「6課:発表時間に遅れてすみません。」 尊敬の接尾辞 ～なさる。」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第13週 「6課:理由、原因や因果関係～て、～ので」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>第14週 「6課: 動詞・存在詞の未来連体形～する、 不可能の意味の～できない [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する</p> <p>第15週 「動詞、形容詞、現在連体系、動詞過去形、 動詞・存在詞の未来連体形の応用と復習」 [予習内容]:CDを聴いて理解する。 [復習内容]:授業内容を復習して理解する。</p> <p>定期試験 第1週から第8週までの講義内容及び第9週から第15週までの講義内容について筆記とリスニング試験を行う。(試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 テキストを中心に、正確な発音のしかた、書きかた、聞き取りを始め、今までの基礎を基に復習を重ねしっかり文の活用が出来る事を目標にし、日常生活、自己表現が出来るよう力付ける。</p> <p>■使用言語 日本語 韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)韓国語を確実に学んで簡単な意思卒が出来るような授業を目指し、語学力をしっかり身につけ言葉の理解が出来るようになる。 2. (E-G2)相手の国の言葉を知らずにその国を理解することはできない、韓国の言葉を通して見えてくるその隣国の文化の理解を深める事が出来、これからの日韓の友好関係の持続の為、若者の communication 場を広げるきっかけになる事を目標にする。 この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与している。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせる。</p> <p>■教科書 (韓国語の世界へ) 入門編 一コツコツ学び、カジュアルに話そうー 朝日出版社 ISBN978-4-255-55647-5 C1087 ¥2300+税</p> <p>■参考文献 ★Google 翻訳機、エキサイト翻訳、 ★朝鮮語辞書 小学館、金星出版社</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)、方式: 記述式、リスニング 定期考査成績: 定期試験結果の点数のみで評価します。 最終成績: 2回の定期考査成績の平均点+夏季課題10点で評価します。 90点以上(秀)、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 科目が始まる前付録のCDを事前に聴いて発音に慣れる事と本文の内容を理解する。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。 第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス Sook127@asint.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(8:35～12:30)</p>	

科目名: <b>韓国語Ⅱb</b>			
英文名: Korean Language Ⅱb			
担当者: <b>李辰淑</b>		開講年度: 2019年度(平成31年度)	
実務経験の内容: 非常勤講師として私立高校、県立高校に勤めていた		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: I	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「答案返却と解答」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第2週 「7課: 暑い夏にサンゲタンを食べます。」 ～した事がある/～した事がない。 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第3週 7課: 動詞の持続, 進行～ている。「日変則活用」の用言」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第4週 「8課: 重たく無いので一人でします。」 ～している。～ので/～だから」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第5週 「8課: ～しますね/～しますから。」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第6週 「9課: パソコンちょっと借りてもいいですか? ～けど」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第7週 「9課: ～でもいい。日変則活用の用言,」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第8週 「10課: リムジンバスの方が便利でしょうね? 話し手の維持や推量を表す接尾辞、～んですよ/～ですから」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第9週 「10課: ～しなければならぬ。」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第10週 「答案返却と解答」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第11週 「11課: 陶磁器も作ってみましたか?」 ～でしょうか? ～ましようか?」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第12週 「11課: ～してみる。～出来る/～出来ない」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第13週 「12課: 韓国の会社に就職しようと思っています。」 連体形 ～するようだ/～したようだ/～しそうだ」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第14週 「12課: ～したようだ/～しそうだ ～しようと思う。～してはいけない。」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>第15週 「これまでの応用と復習」 [予習内容]: CDを聴いて理解する。 [復習内容]: 授業内容を復習して理解する。</p> <p>定期試験 第1週から第9週までの講義内容及び第10週から第15週までの講義内容について筆記とリスニング試験を行う。(試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 テキストを中心に、正確な発音のしかた、書きかた、聞き取りを始め、今までの基礎を基に復習を重ねしっかり文の活用が出来る事を目標にし、日常会話、自己表現が出来るよう力付ける。</p> <p>■使用言語 日本語 韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)韓国語を確実に学んで簡単な意思卒が出来るような授業を目指し、語学力をしっかり身につけ言葉の理解が出来るようにする。 2. (E-G2)相手の国の言葉を知らずにその国を理解することはできない、韓国の言葉を通して見えてくるその隣国の文化の理解を深める事が出来、これからの日韓の友好関係の持続の為、若者の communication 場を広げるきっかけになる事を目標にする。 この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与している。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせる。</p> <p>■教科書 (韓国語の世界へ) 入門編 一コツコツ学び、カジュアルに話そうー 朝日出版社 ISBN978-4-255-55647-5 C1087 ￥2300+税</p> <p>■参考文献 ★Google 翻訳機、エキサイト翻訳、 ★朝鮮語辞書 小学館、金星出版社</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)、方式: 記述式、リスニング 定期考査成績: 定期試験結果の点数のみで評価します。 最終成績: 2回の定期考査成績の平均点+夏季課題10点で評価します。 90点以上(秀)、80点以上～90点未満「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 科目が始まる前付録のCDを事前に聴いて発音に慣れる事と本文の内容を理解する。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。 第1回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス Sook127@asint.jp</p> <p>■オフィスアワー 土曜日(8:35～12:30)</p>	

科目名: <b>技術と倫理 a</b>			
英文名: Engineer Ethics			
担当者: 齊藤公博 安井宣仁		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容: 企業における研究開発業務の経験		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 5	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>第 1 週 「ガイドンス、技術者倫理とは？」 [予習内容]: 技術者倫理に関わる近年の社会的問題事例を調べること(60 分) [復習内容]: 講義内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 2 週 「技術者にとっての法律」 [予習内容]: テキストをよく読み、技術者に関わる法律について調べること(60 分) [復習内容]: 講義内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 3 週 「産業財産権、倫理綱領」 [予習内容]: 知的財産権について予習すること(60 分) [復習内容]: 課題1を完成させること(30 分)</p> <p>第 4 週 「技術者の義務と責任、倫理的問題解決方法」 [予習内容]: 講義内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 講義内容を復習し、理解すること(30 分)</p> <p>第 5 週 「事例研究: シティ・コープタワーの危機」 [予習内容]: 事例研究の内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 課題2を完成させること(30 分)</p> <p>第 6 週 「事例研究: スペースシャトル・チャレンジャー号事故」 [予習内容]: 事例研究の内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 講義資料をよく読み内容を整理すること(30 分)</p> <p>第 7 週 「事例研究: スペースシャトル・チャレンジャー号事故」 [予習内容]: 事例研究の内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 課題3を完成させること(30 分)</p> <p>第 8 週 「土木技術者の倫理」 [予習内容]: 第1～7 週の講義内容の復習と倫理観について予習すること (60 分) [復習内容]: 講義資料の内容をより深く理解すること (30 分)</p> <p>第 9 週 「技術者として在り方」 [予習内容]: 技術者として在るべき倫理観について予習すること (60 分) [復習内容]: 講義資料の内容をより深く理解すること (30 分)</p> <p>第10週 「事例研究: 姉歯耐震偽装問題(構造計算書偽装)」 [予習内容]: 事例研究の内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 配布資料の内容を理解すること (30 分)</p> <p>第11週 「事例研究: 姉歯耐震偽装問題(構造計算書偽装)～再発防止策について～」 [予習内容]: 具体的な再発防止策について検討する(60 分) [復習内容]: 配布資料をよく理解し復習すること(30分)</p> <p>第12週 「事例研究: 六本木ヒルズ自動回転ドア事故」 [予習内容]: 事例研究の内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 配布資料をよく理解し復習すること(30分)</p> <p>第13週 「事例研究: 六本木ヒルズ自動回転ドア事故～重大事故の予兆と対応～」 [予習内容]: 重大事項の予兆、ヒヤリハットについて予習すること(60 分) [復習内容]: 配布資料をよく理解し復習すること(30分)</p> <p>第14週 「事例研究: 雪印乳業食中毒事件」 [予習内容]: 事例研究の内容について予習すること(60 分) [復習内容]: 配布資料をよく理解し復習すること(30分)</p> <p>第15週 「事例研究: 雪印乳業食中毒事件～ゼロリスクについて～」 [予習内容]: リスクとは何か理解を深めておくこと(60 分)</p> <p>定期試験 筆記試験は行わず、レポート課題(100%)で評価する。第1週～15 週までの講義内容についての筆記試験を行う。筆記試験は講義ノート(コピー不可)、教科書の持込を可とする。(試験時間: 50 分)</p>		<p>■授業概要 近年の度重なる重大事故や企業の不祥事など技術者の倫理観に関わる諸問題について、自分自身の問題として考えさせます。科学技術が人類の発展にとって重要なものになり、それを担う技術者の行動が社会におよぼす影響の重大さを認識させます。倫理的問題に直面したときに技術者として正しく行動できる能力を養成します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■到達目標 受講者はこの授業を履修することによって、 1.(C-G2)(C-2)人間社会と科学の関係、技術者としての責任について正しく理解する。 2.(D-G2)(D-2)技術者の行動指針を立てそれを遵守する心を持つ。 3.(C-G3)(C-3)企業の一員として必要とされる法律的知識を新たに習得する。 ことができるようになります。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 適宜、レポート課題の内容について解説する。</p> <p>■教科書 使用しない。適宜プリントを配布します。</p> <p>■参考文献 「技術者倫理」札野順著 放送大学教育振興会 ISBN-978-4595315701 「技術者倫理の世界」藤本温編集 森北出版 ISBN-978-4-627-97303-9 土木学会「土木技術者倫理問題」丸善出版 ISBN978-4-8106-0939-4</p> <p>■関連科目 倫理a, b</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験: 筆記試験は行わず、レポート課題(100%)で評価する。 最終成績: 各教員がレポート100%で評価し、2 教員の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修 授業で指示された課題やレポートに取り組むこと。</p> <p>■教員所在場所 齊藤公博: 本館2F 地域連携テクノセンター、 安井宣仁: 本館 2 階教務部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に Web Class にて実施します。</p> <p>■メールアドレス ksaitoh@ktc.ac.jp (齊藤) nyasui@ktc.ac.jp (安井)</p> <p>■オフィスアワー 齊藤: 水曜日 12:20～13:00、安井: 火曜日 12:15～13:00</p>	

科目名: <b>技術と倫理 b</b>			
英文名: <b>Engineer Ethics</b>			
担当者: <b>井戸辻吉三 奥田昇也</b>		開講年度: 2019 年度(平成 31 年度)	
実務経験の内容:機械技術者として勤務。社長(井戸辻)、設計・研究開発(奥田)を担当。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム工学科	学年: 5	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	単位の種別: 履修	
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
「授業タイトル」			
第 16週 「倫理と法」 [予習内容]:第1~15週の講義内容の復習、及び倫理と法の関係について予習すること(60分) [復習内容]:講義資料の内容をより深く理解すること(30分)		■授業概要・方法等 近年の度重なる重大事故や企業の不祥事など技術者の倫理観に関わる諸問題について、自分自身の問題として考えさせます。科学技術が人類の発展にとって重要なものになり、それを担う技術者の行動が社会におよぼす影響の重大さを認識させます。倫理的問題に直面したときに技術者として正しく行動できる能力を養成します。	
第 17週 「倫理綱領について」 [予習内容]:各学会の倫理綱領を予習すること(60分) [復習内容]:倫理綱領発行の意味内容を理解すること(30分)		設計、研究開発での実務経験をもとに、上記の内容について解説します。	
第 18週 「事例紹介:倫理と社会」 [予習内容]:事例研究の内容について予習すること(60分) [復習内容]:配布資料の内容を理解すること(30分)		■使用言語 日本語	
第 19週 「事例研究:東海村 JCO 臨界事故」 [予習内容]:事例研究の内容について予習すること(60分) [復習内容]:配布資料の内容を理解し復習すること(30分)		■到達目標 受講者はこの授業を履修することによって、	
第 20週 「事例研究:原子力発電所の事故」 [予習内容]:事例研究の内容について予習すること(60分) [復習内容]:調査内容を整理し理解すること(30分)		1.(C-G2)(C-2)人間社会と科学の関係、技術者としての責任について正しく理解する。 2.(D-G2)(D-2)技術者の行動指針を立てそれを遵守する心を持つ。 3.(C-G3)(C-3)企業の一員として必要とされる法律的知識を新たに習得する。	
第 21週 「事例研究:原子力発電所の事故グループ討議」 [予習内容]:グループ討議で自分の意見を発表出来る様予習すること(60分) [復習内容]:グループ員と自分の意見を纏めること(30分)		3. (C-G3)(C-3) 企業の一員として必要とされる法律的知識を新たに習得する。 ことができるようになります。	
第 22週 「事例研究:原子力発電所の事故発表及び討議」 [予習内容]:発表討議について自分の役割予習すること(60分) [復習内容]:他の人の意見と自分の意見を纏めること(30分)		■教科書 使用しない。適宜プリントを配布します。	
第 23週 「技術者の倫理」 [予習内容]:第16~22週の講義内容の復習と倫理観について予習すること(60分) [復習内容]:講義資料の内容をより深く理解すること(30分)		■参考文献 「技術者倫理」札野順著 放送大学教育振興会 (ISBN-13:978-4595309311)、 「技術者倫理の世界」藤本温編集 森北出版 (ISBN 978-4-627-97303-9)	
第 24週 「技術者として在り方」 [予習内容]:技術者として在るべき倫理観について予習すること(60分) [復習内容]:講義資料の内容をより深く理解すること(30分)		■関連科目 倫理a, b	
第25週 「事例研究:船場吉兆事件」 [予習内容]:事例研究の内容について予習すること(60分) [復習内容]:配布資料の内容を理解すること(30分)		■成績評価方法および基準 定期試験:筆記試験は行わず、レポート課題(100%)で評価する。 最終成績:各教員がレポート 100%で評価し、2 教員の平均とします。 90 点以上「秀」、80 点以上~90 点未満「優」、70 点以上~80 点未満「良」、60 点以上~70 点未満「可」、60 点未満「不可」 配点基準は、内容の把握(40%)、背景・経緯の把握(30%)、考察(30%)とする	
第26週 「事例研究:雪印乳業の製品による集団食中毒事件」 [予習内容]:具体的な再発防止策について検討する(60分) [復習内容]:配布資料をよく理解し復習すること(30分)		■授業時間外に必要な学修 授業で指示された課題やレポートに取り組むこと。発表練習は必ず各自で行う。	
第27週 「事例研究:フォード・ピント事件」 [予習内容]:事例研究の内容について予習すること(60分) [復習内容]:配布資料をよく理解し復習すること(30分)		■教員所在場所 井戸辻吉三:3 号館 1F 電気情報教員室、奥田昇也:本館 2 階企画広報室	
第28週 「事例研究:三菱自動車リコール隠し、タイヤ直撃死傷事件」 [予習内容]:重大事項の予兆について予習すること(60分) [復習内容]:配布資料をよく理解し復習すること(30分)		■メールアドレス idotsuji@ktc.ac.jp (井戸辻) okuda@ktc.ac.jp (奥田)	
第29週 「事例研究: CVCC エンジンの開発(本田)」 [予習内容]:事例研究の内容について予習すること(60分) [復習内容]:配布資料をよく理解し復習すること(30分)		■オフィスアワー 井戸辻:火曜日 12:15~13:00、奥田:火曜日 17:00~18:00	
第30週 「事例研究:パロマの湯沸かし器 CO 中毒死亡事故」 [予習内容]:リスクとは何か理解を深めておくこと(60分)		■オフィスアワー 月曜日~水曜日の 16 時 15 分~17 時 15 分	
定期試験 筆記試験は行わず、レポート課題(100%)で評価する。			